

NX 起動用シート

内容

法的通知	3
NX を起動する	4
はじめに	5
DR ワークフロー	6
CR ワークフロー	6
検査の管理	6
RIS から患者を開く	8
患者データを手動で入力する	10
検査を合成する	12
患者カテゴリ	15
X 線照射の選択と実行	16
DR ワークフロー	17
自動化された DR フルスクリーンの配列	20
CR ワークフロー	23
X 線発生装置のコントロールを伴う CR ワークフロー	28
X 線発生装置と接続させた Mammography CR ワークフロー	32
X 線照射パラメータの手動エントリによる Mammography CR ワークフロー	33
品質管理を実行する	35
広範な編集可能性について	39

法的通知



0413

 Agfa HealthCare NV, Septestraat 27, B-2640 Mortsel - Belgium

Agfa の製品及び AgfaHealthCare 製品に関する詳細な情報については、www.agfa.com をご覧ください。

Agfa と Agfa-Rhombus は、Agfa-Gevaert N.V., Belgium または関係会社の商標です。NX と IMPAX は、Agfa HealthCare N.V., Belgium または関係会社の商標です。他のすべての商標は各所有者に帰属しており、侵害の意図無く、中立的な仕方で使用されます。

Agfa HealthCare N.V. は本書に含まれる情報の精度、完全性または利便性に関して明示的または黙示的に保証または表明するものではなく、任意の特別な目的に対する適用性を特定の表明するものではありません。場所によっては、製品とサービスは使用できない場合もあります。利用できるかどうかについて、地元の販売部の代表までお問い合わせください。Agfa HealthCare N.V. は提供情報の正確さには努めますが、誤字の責任を負いかねます。Agfa HealthCare N.V. は本書に記載される情報、機器、手段またはプロセスに起因する損害に対していかなる状況のもとでもその責任を負いません。Agfa HealthCare N.V. は本書の内容を事前に通告することなく変更する権利を保有します。本書の原本は英語で作成されています。

Copyright 2016 Agfa HealthCare N.V.

著作権所有。

発行: Agfa HealthCare N.V.

B-2640 Mortsel - Belgium。

Agfa HealthCare N.V. 社からの書面による許可がない限り、この文書のどの部分も、いかなる形式でも複製、複写、編集あるいは転送することはできません。

NX を起動する

トピック:

- [はじめに](#)
- [検査の管理](#)
- [X 線照射の選択と実行](#)
- [品質管理を実行する](#)
- [広範な編集可能性について](#)

はじめに

この章では、NX ワークステーションの操作方法を学びます。NX には主要なワークフローがあり、操作の簡単なユーザーインターフェースと高い患者処理能力を提供します。このワークフローに続いて、NX の使用方法を学習します。



注記: ユーザーの病院ワークフローに対応して、適用できないステップもあります。

トピック:

- [DR ワークフロー](#)
- [CR ワークフロー](#)

DR ワークフロー

1. RIS から患者を開くか、患者データを手動で入力します。

新規患者が来た時、検査用の患者情報を定義します。

2. 検査を選択する。

検査用の照射説明書を設定します。

3. X 線照射を実行します。

4. 品質管理を実行する。

画質評価を行い、診断用の画像を作成します。画像はハードコピープリンタまたは PACS (Picture Archiving and Communication System:画像アーカイブ通信システム) に送信されます。



注記: この主要なワークフローの次に、[編集] ウィンドウに多数の画像処理ツールがあります。

CR ワークフロー

1. RIS から患者を開くか、患者データを手動で入力します。

新規患者が来た時、検査用の患者情報を定義します。

2. 検査を選択する。

検査用の照射説明書を設定します。

3. カセットを識別する。

検査を扱うカセットを識別します。識別の前後で自由に X 線照射を実行できます。

4. 画像をデジタル化する。

Digitizer は画像を NX に送信します。

5. 品質管理を実行する。

画質評価を行い、診断用の画像を作成します。画像はハードコピープリンタまたは PACS (Picture Archiving and Communication System:画像アーカイブ通信システム) に送信されます。

検査の管理

トピック:

- [RIS から患者を開く](#)
- [患者データを手動で入力する](#)

- 検査を合成する
- 患者カテゴリ

RIS から患者を開く

手順:

1. ワークリストウィンドウで:

- リスト(1)から検査を選択して、[検査開始] (2)をクリックします。
- 表示されたサムネイルを押します。
- リストの検査をダブルクリックします。

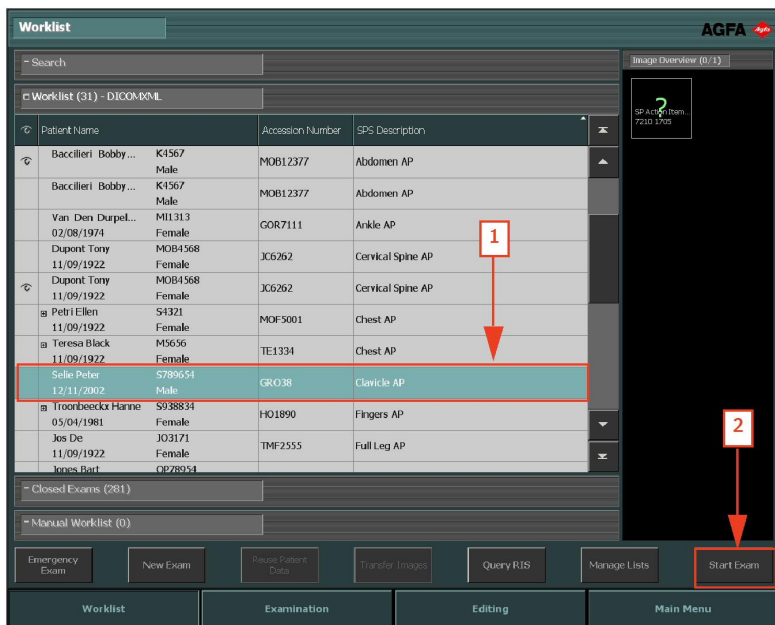


図 1: [ワークリスト] ウィンドウから検査を開始する



注記: システムがプロトコルコードを解釈するよう設定されている場合、画像は事前を選択されることもあります。その場合、[検査開始] をクリックする時、画像は自動的に追加されます。

2. 患者(1)および検査(2)の詳細が検査ウィンドウに表示されます。

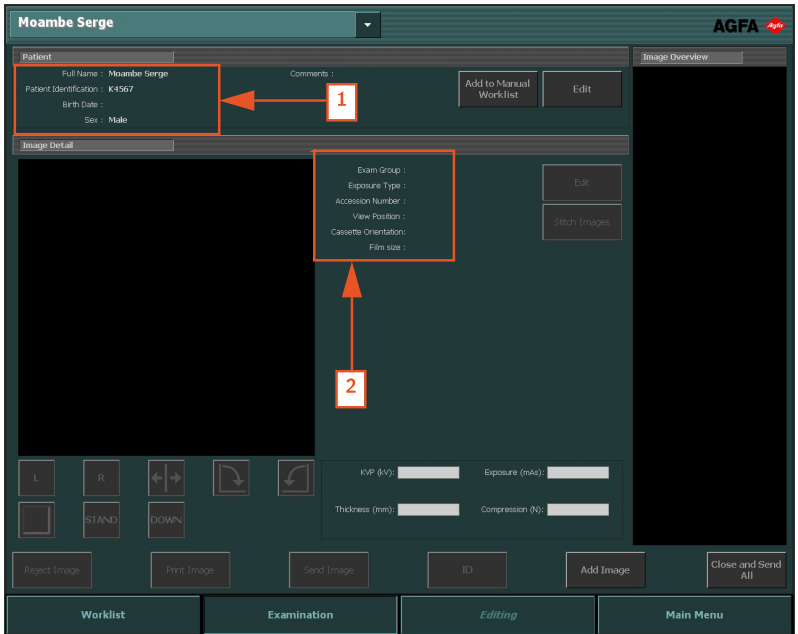


図 2: [検査] ウィンドウ

患者データを手動で入力する

1. ワークリストウィンドウで、**新規検査**をクリックします。

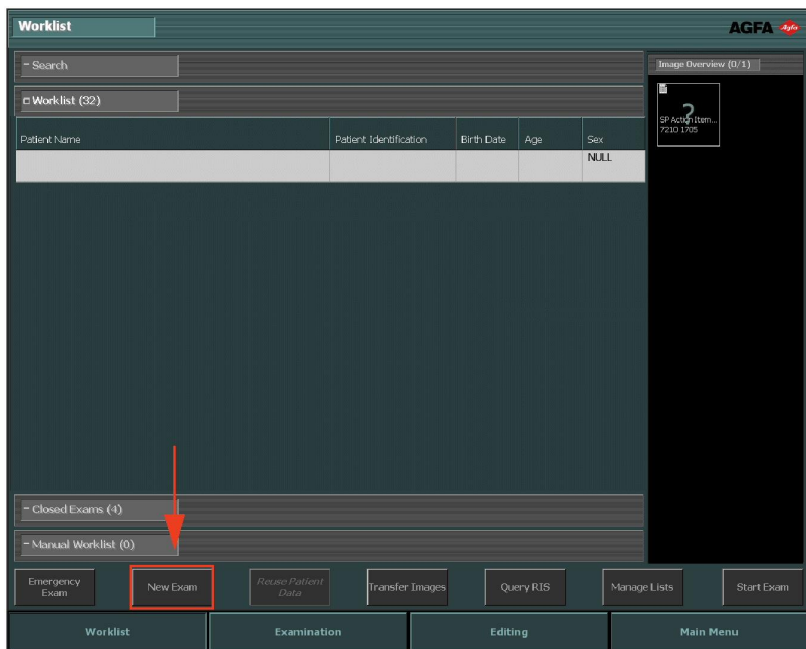


図 3: 患者データを手動で入力する

2. 検査ウィンドウが開き、患者情報を記入します: 右側に星印がある全フィールドは必須であり、続行するには記入が必要です。

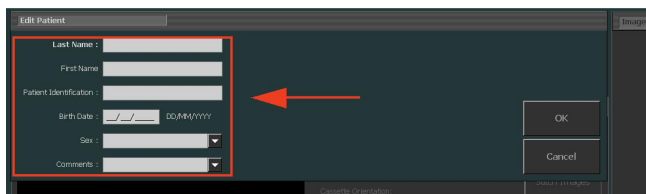


図 4: 患者編集フレーム

3. OKをクリックします。

患者情報に生年月日または年齢が提供されていない場合は、患者のカテゴリの選択を問う追加のダイアログが表示されます。

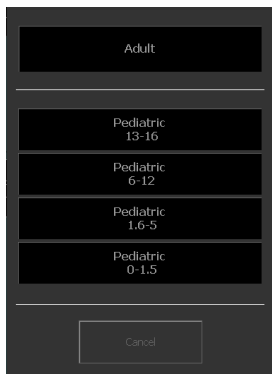


図 5: 患者カテゴリダイアログ

4. 患者のカテゴリを選択して、OK をクリックします。

[画像追加] ウィンドウが開いて、必要な画像を追加できます。



図 6: [画像追加] ウィンドウ

5. OK をクリックします。

検査を合成する

1. 検査ウィンドウの画像追加をクリックします。

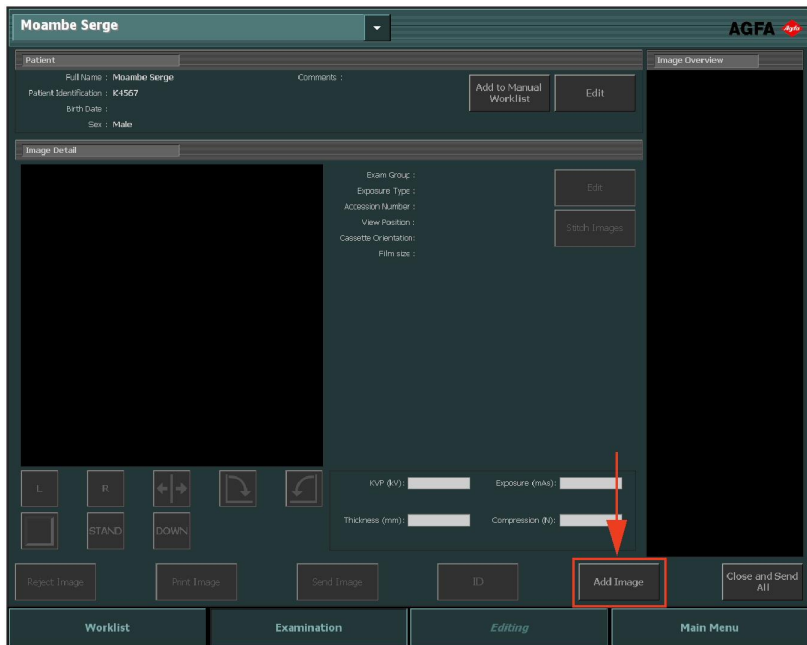


図 7: [検査] ウィンドウおよび強調された [画像追加] ボタン



注記: システムがプロトコルコードを解釈するよう設定されている場合、画像は事前にも選択されることもあります。その場合、[検査開始] をクリックする時、画像は自動的に追加されます。

患者情報に生年月日または年齢が提供されていない場合は、患者のカテゴリの選択を問う追加のダイアログが表示されます。

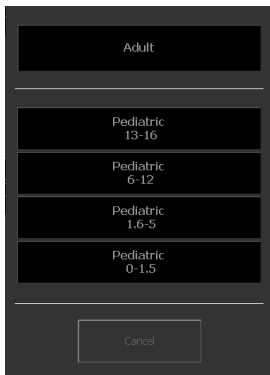


図 8: 患者カテゴリダイアログ

2. 患者のカテゴリを選択して、OK をクリックします。

画像追加ウィンドウが現れます。



図 9: [画像追加] ウィンドウ



注記: 患者カテゴリは、患者の誕生日から計算された年齢または患者の体重などの構成に基づき、自動で選択されます。例外的な場合のみ、年齢カテゴリを変更すべきです。

3. 最初にグループを選択し、次に照射タイプを選択して、検査タイプを指定します。追加したい全ての追加照射タイプに対して、このステップを繰り返します。



注記: DR 環境では、照射タイプのサムネイルは違って見えます。「照射を定義する」を参照してください。

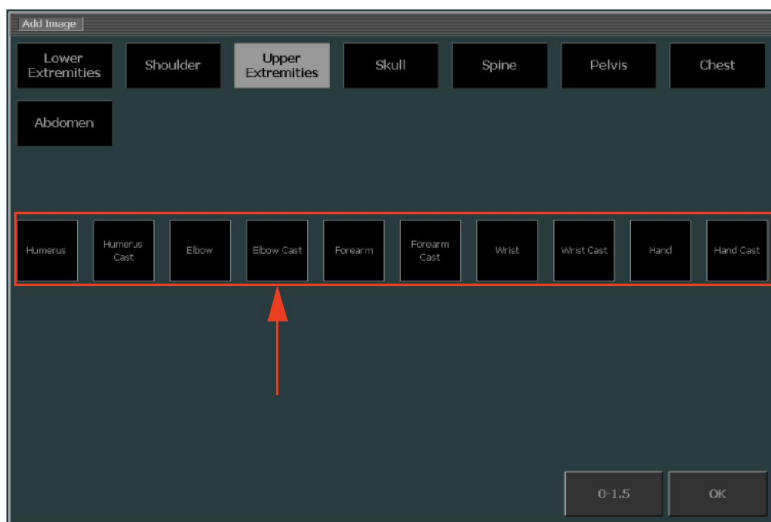


図 10: [画像追加] ウィンドウで照射タイプを選択します

画像サムネイルが画像概要に追加されます。

4. OK をクリックします。

患者カテゴリ

NX Workstation は、患者の年齢および患者の体重に基づく患者カテゴリを使用して、独自の画像処理、表示設定、照射パラメータを適用することができます。

年齢、誕生日または体重などの患者データを利用する場合、既定カテゴリは自動で選択されます。患者データが不十分な場合、画像を追加した際に患者カテゴリウィンドウが表示されます。

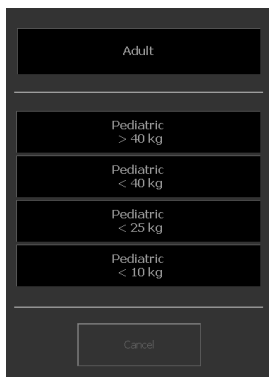
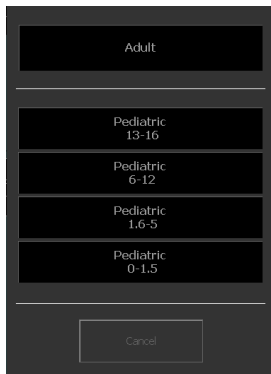


図 11: 年齢および体重の患者カテゴリダイアログ

異なる患者カテゴリの選択

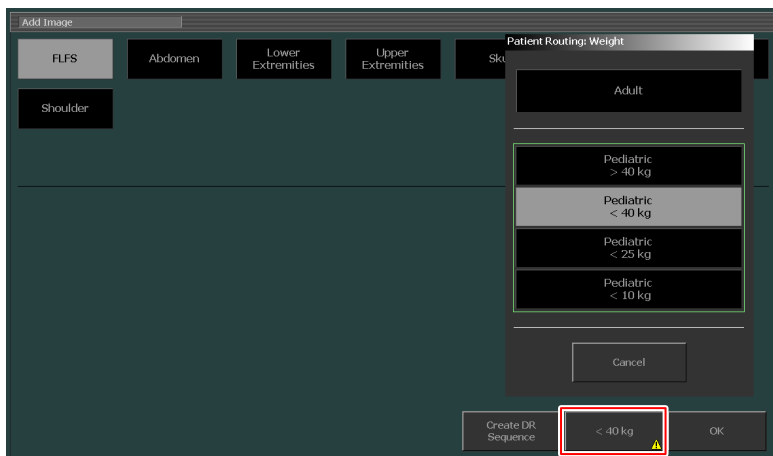
特定の患者では、既定カテゴリで適切な画像処理、表示設定または照射パラメータを定義しない場合、画像を追加した際に別のカテゴリが選択されます。

[画像の追加]ウィンドウでは、患者カテゴリボタンは既定カテゴリを表示します。

異なる患者カテゴリを選択するには:

1. 患者カテゴリボタンをクリックします。

患者カテゴリダイアログが表示されます。患者データに基づき、患者が成人カテゴリ、子供カテゴリのどちらかに属するかは、グリーンのボーダーで示します。



2. 特定患者に適切であるカテゴリを選択します。

患者カテゴリボタンは、新しいカテゴリを表示します。新しい画像には、新しいカテゴリに対応する設定があります。

患者データに入力された患者の年齢または体重に対応しない設定が適用された画像が追加されたことを警告するために、患者カテゴリボタンおよび[画像の追加]ボタン内に小さな警告が表示されます。

X 線照射の選択と実行

X 線照射の選択や実行の手順は、NX やデジタイザの構成の設定および X 線モダリティへの接続性によります。主要なワークフロータイプは、次のセクションで説明します。

トピック:

- [DR ワークフロー](#)
- [自動化された DR フルスクリーンの配列](#)
- [CR ワークフロー](#)
- [X 線発生装置のコントロールを伴う CR ワークフロー](#)
- [X 線発生装置と接続させた Mammography CR ワークフロー](#)
- [X 線照射パラメータの手動エントリによる Mammography CR ワークフロー](#)

DR ワークフロー

NX Workstation は DR システムで使用できます。

この状況では、照射を実行するための専用ワークフローがあります。

手順:

1. [検査] ウィンドウの画像概要フレームで照射のサムネイルを選択します。

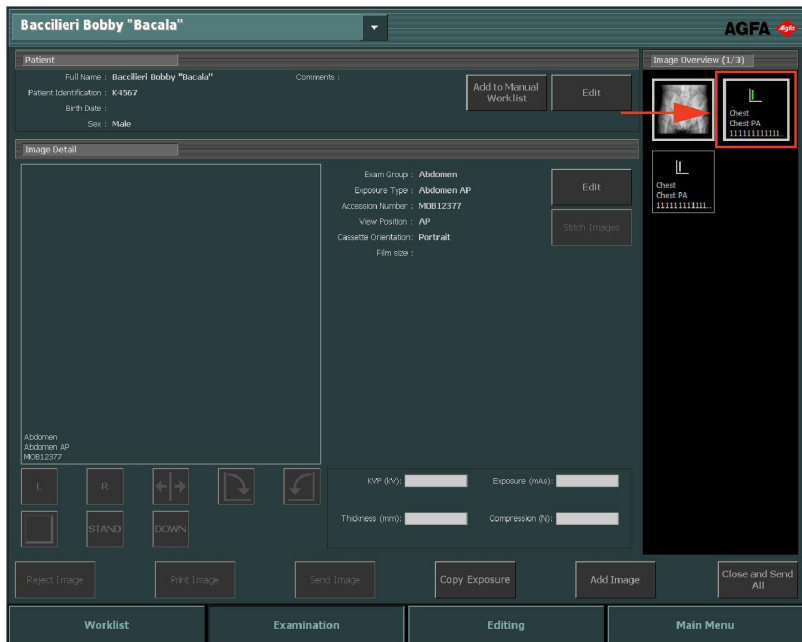


図 12: 画像サムネイルが強調表示された [検査] ウィンドウ

選択した DR 検知器がアクティブ化されます。

選択した検査または照射用のデフォルトの X 線照射パラメータがモダリティに送信されます。

注記:

- 照射前に別のサムネイルが選択された場合、選択した DR 検知器がアクティブ化し、その検査用のデフォルトの X 線照射パラメータがモダリティに送信され、以前送信されたパラメータは棄却されます。

NX がそのように設定されると、[強制オペレータ識別] ウィンドウが表示されます。



図 13: [強制オペレータ識別] ウィンドウ

2. [強制オペレータ識別] ウィンドウでは、リストから名前を選択するか、あなたの名前を入力して、[OK] をクリックします。



注記: オペレータ識別は、最初のサムネイルを選択する時だけ要求されます。検査が複数のオペレータにより実行される時、画像詳細編集フレームの「オペレータ」フィールドを適合させることができます (設定されている場合)。「特定の画像設定を変更する」を参照してください。

3. 照射設定を確認します。

- a) X-Ray System のコンソール上に表示された照射の設定が照射に適切であるかどうかを確認します。
- b) NX 検査で定義されているものとは別の照射値が必要な場合は、X-Ray System コンソールを使って定義された既定の照射設定を上書きします。



注記: 既定の X 線照射パラメータは参考として使用できますが、ユーザーは必要に応じてこれらを確認・修正する必要があります。既定の X 線照射パラメータは NX Service and Configuration Tool で定義されています。詳細については、キーユーザーマニュアルを参照してください。



注記: NX ソフトウェアで X 線照射パラメータを変更することはできません。これは X-Ray System のコンソール上でのみ可能です。



注記: 目標照射指数 (TEI) および希望する画像の質に基づいた既定の照射パラメータの決定方法に関する詳細情報は、「推奨の照射線写真術およびユーザーガイド」を参照してください。

4. 患者を位置合わせして、照射を行います。



注意:

プレビュー画像がアクティブなサムネイルで見えるようになるまで、他のサムネイルを選択しないでください。取得した画像が間違っただけの照射に関連づけられるおそれがあります。



注記: 照射前、照射中および照射後の X 線の被爆パラメータは、X-Ray System コンソール上に表示されます。



注記: 照射前、照射中および照射後の -Ray System の位置パラメータは X-Ray System コンソールに表示するか、もしくは X-Ray System コントロールから読み取ることができます。

照射実行後、[検査] ウィンドウは次のように表示されます:

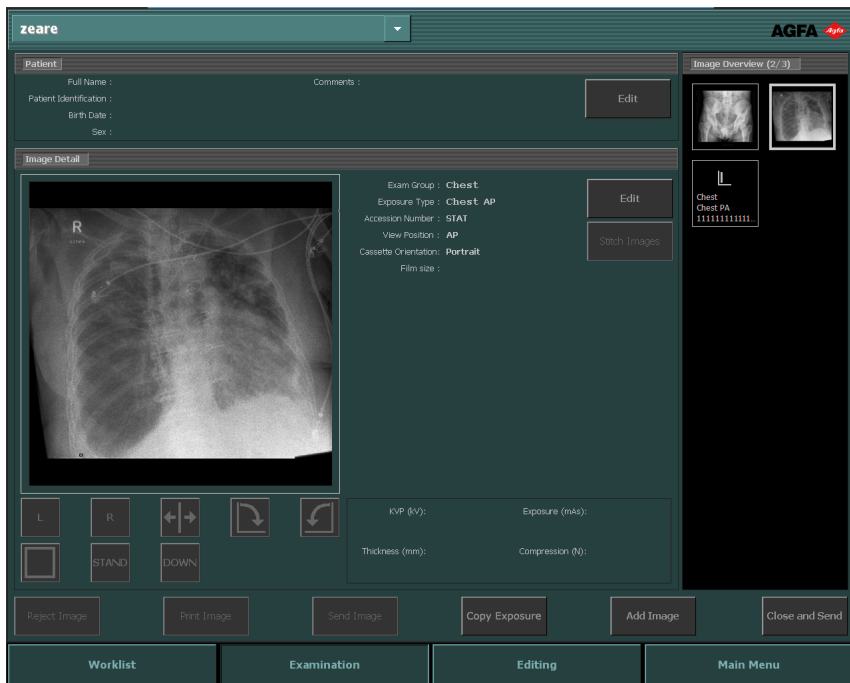


図 14: DR 検知器で照射を行った後の [検査] ウィンドウ

結果として:

- 画像が DR 検知器から取得されて、サムネイルに表示されます。
- チューブの関心領域が適用される場合、画像は自動的に関心領域のボーダーでトリミングされます。
- 実際の X 線照射パラメータは、モダリティから NX ワークステーションに返されます。
- X 線照射パラメータ (kV、mAs または DAP 等) は、[検査] ウィンドウの画像詳細フレームに表示されます。表示パラメータのリストは設定できます。

5. パラメータは画像と共に保存されます。

パラメータは画像と共にアーカイブへ送信できますし、画像と共に印刷できます。MPPS 経由でも送信できます。

自動化された DR フルスクリーンの配列

事前定義された DR 照射の配列を、毎回 NX ワークステーションに戻って新しい照射を取得する必要なく実行することができます。自動化されたワークフローでは、取得された画像と DR 検知器のステータスがフルスクリーンで表示されます。

自動化された DR フルスクリーンの配列を開始するには、

1. 検査ウィンドウの**画像追加**をクリックします。

画像追加ウィンドウが現れます。



図 15: DR 配列ボタンの作成

2. **画像追加**ウィンドウで **DR 配列**の**作成**ボタンをクリックします。



注記: 事前定義された自動化された DR フルスクリーンの配列は、NX Service and Configuration Tool を使って設定することができます。詳細については、キーユーザーマニュアルを参照してください。

3. 必要な順序に照射を追加します。

配列内の画像は、サムネイルの左下角に小さな三角形で示されます。検査に複数の配列が含まれる場合、マークは配列と区別するために白か黒に変わります。



4. [検査] ウィンドウの画像概要フレームで最初の照射のサムネイルを選択し、通常の DR ワークフローに従います。

設定されている場合、照射を行うための位置参照画像と説明文が表示されません。

それぞれの画像を取得すると、画像がフルスクリーンモードで表示され、次のサムネイルは自動的に選択されます。DR 検知器シンボルの色は、DR 検知器のステータスを示します。



図 16: フルスクリーンモードの検査ウィンドウ

5. 最後の画像が取得されたら、閉じるボタンをクリックしてフルスクリーンモードを終了します。





図 17: [閉じる] ボタン

トピック:

- [DR 検知器のステータス](#)
- [自動化された DR フルスクリーンの配列中に画像を拒否する](#)

DR 検知器のステータス

画像	説明
	グレー:画像は予定されており、DR 検知器は現在スリープモードです。 選択していないサムネイルでは、ステータスの表示は常にグレーです。
	グリーン:DR 検知器は、選択した取得システムでの照射を取得する準備ができています。 グリーン点滅照射が実行され、取得が進行中です。
	レッド:DR 検知器は故障しています。 赤い点滅:選択した取得システムは起動中です。

自動化された DR フルスクリーンの配列中に画像を拒否する

取得された画像はフルスクリーンモードで表示されます。

この画像を拒否するには、

1. [拒否] ボタンをクリックします。



図 18: [拒否] ボタン

拒否理由ダイアログボックスが開きます。

2. その画像を拒否する理由を選択します。

取得された画像が拒否され、配列に新たなサムネイルが追加されます。照射を反復するため、その新しいサムネイルが選択されます。

CR ワークフロー

トピック:

- [カセットを識別する](#)
- [画像をデジタル化する](#)

カセットを識別する

NX は、カセット識別時とは異なるワークフローが続く方法で構成可能です。NX Service and Configuration Tool でこれらのワークフローのどれかを使用するように、NX を構成することができます。

- ID Tablet を使用してカセットを識別します。つまり、ワークフローは次のように進みます: サムネイルを選択し、カセットをタブレットに挿入して **ID** をクリックします。
- ID Tablet (「Auto ID」) を使用して自動的に識別します。つまり、ワークフローは次のように進みます: サムネイルを選択し、カセットをタブレットに挿入します。ID ラベルは自動的に画像とサムネイルに追加されます。キーユーザーマニュアル、デバイス構成、セクション ID Tablets を参照してください。
- Digitizer で識別します (「Fast ID」)。つまり、ワークフローは次のように進みます: サムネイルを選択し、カセットをデジタルタイザに挿入して **ID** をクリックします。キーユーザーマニュアル、デバイス構成、セクション Digitizers を参照してください。

手順:

1. ID Tablet にカセットを挿入します。
2. **検査**ウィンドウで、画像概要の適切なサムネイルを選択します。

下の検査では、自動的に選択されるサムネイルが 1 つだけあります。2 つ以上のサムネイルがある場合、選択したサムネイルを最初に処理する必要は無く、他のサムネイルを選択できます。

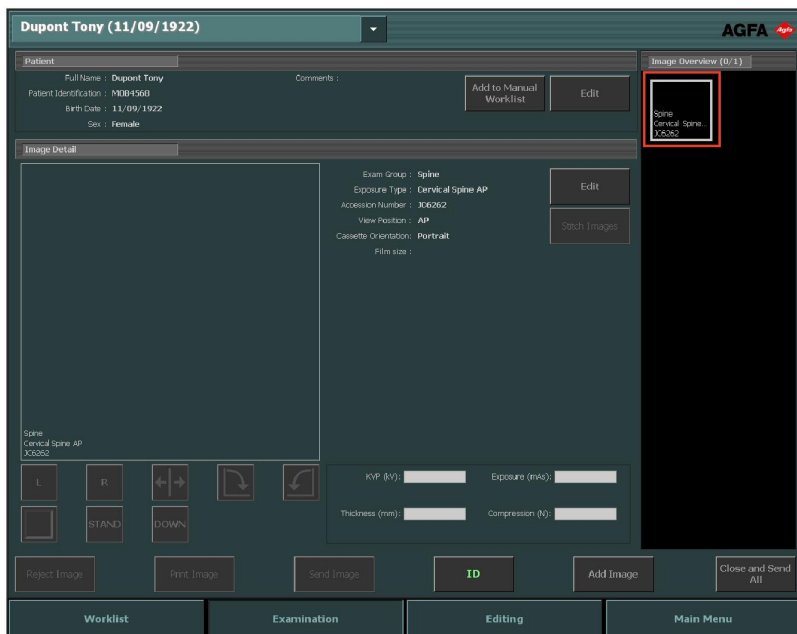


図 19: [検査] ウィンドウでサムネイル選択

3. ID をクリックするか、F2 を押します。

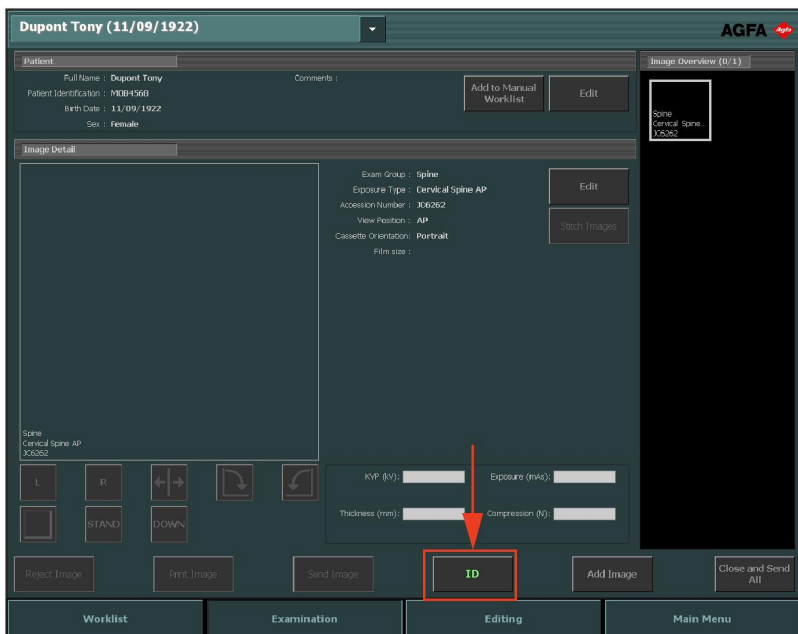


図 20: [検査] ウィンドウおよび強調された [ID] ボタン (カセットのワークフロー)。

NX がそのように設定されると、[強制オペレータ識別] ウィンドウが表示されます。



図 21: [強制オペレータ識別] ウィンドウ

- [強制オペレータ識別] ウィンドウでは、リストから名前を選択するか、あなたの名前を入力して、[OK] をクリックします。



注記: オペレータ識別は、最初のサムネールを識別する時だけ要求されます。検査が複数のオペレータにより実行される時、画像詳細編集フレームの「オペレータ」フィールドを適合させることができます (設定されている場合)。「特定の画像設定を変更する」を参照してください。

- サムネールはコード「ID」でラベル付けされます。患者データがカセットに書き込まれます。

- サムネール (1) 上の ID ラベル

- 画像 (2) 上の ID ラベル

設定に対応して、識別される次の照射サムネイルがここで選択されます。

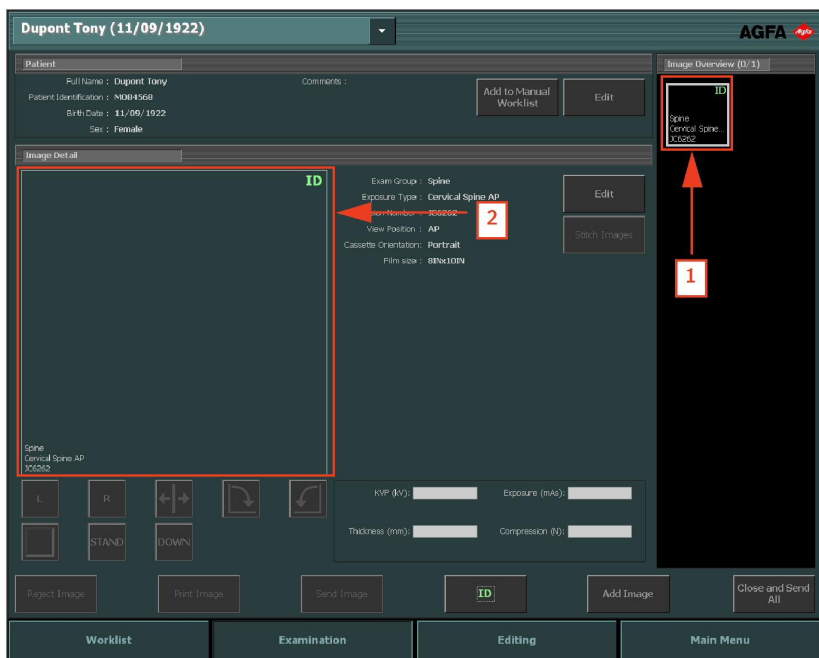


図 22: [検査] ウィンドウおよび識別された照射 (カセットのワークフロー)



注記: カセットの識別は、X 線照射前後に実行可能です。代替の識別手順については、「カセットを識別する」を参照してください。



注記: [画像追加] ウィンドウでカセットを識別することも可能です。

画像をデジタル化する

手順:

1. デジタイザにカセットを挿入します。
2. 画像が、検査ウィンドウの画像概要フレームに現れます。

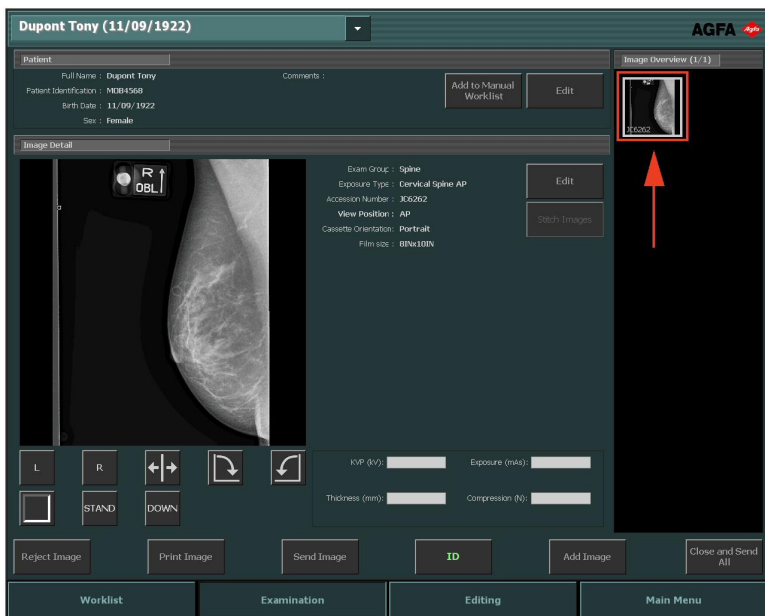


図 23: [検査] ウィンドウに画像が表示されます

X 線発生装置のコントロールを伴う CR ワークフロー

NX Workstation は、X 線照射設定を交換するため X-Ray System Generator に接続可能です。この機能は、ライセンスによって異なります。この状況には専用のワークフローがあります: カセットの識別は、照射が行われた後に毎回行われます。[検査] ウィンドウ使用の他の面は、この章の他の部分の記載と同じです。

このワークフローは、DR システムの一部となっている NX Workstation での CR 照射の実行時にも適用されます。

手順:

1. [検査] ウィンドウの画像概要フレームで照射のサムネイルを選択します。

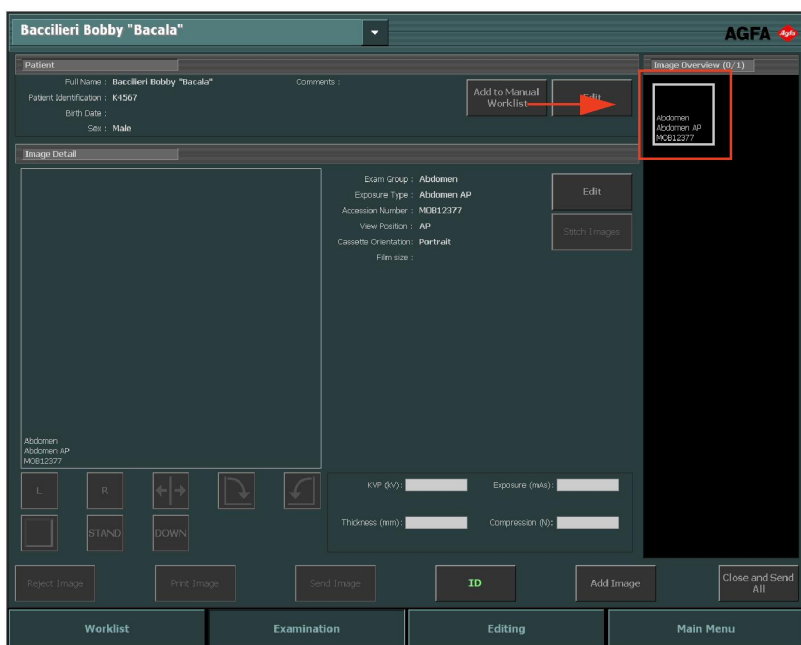


図 24: 画像サムネイルが強調表示された [検査] ウィンドウ

選択した検査または照射用のデフォルトの X 線照射パラメータがモダリティに送信されます。

注記:

- 照射前に別のサムネイルが選択された場合、その検査用のデフォルトの X 線照射パラメータがモダリティに送信され、以前送信されたパラメータは棄却されます。

2. 照射設定を確認します。

- a) X-Ray System のコンソール上に表示された照射の設定が照射に適切であるかどうかを確認します。
- b) NX 検査で定義されているものとは別の照射値が必要な場合は、X-Ray System コンソールを使って定義された既定の照射設定を上書きします。



注記: 既定の X 線照射パラメータは参考として使用できますが、ユーザーは必要に応じてこれらを確認・修正する必要があります。既定の X 線照射パラメータは NX Service and Configuration Tool で定義されています。詳細については、キユーザーマニュアルを参照してください。



注記: NX ソフトウェアで X 線照射パラメータを変更することはできません。これは X-Ray System のコンソール上でのみ可能です。



注記: 目標照射指数 (TEI) および希望する画像の質に基づいた既定の照射パラメータの決定方法に関する詳細情報は、「推奨の照射線写真術およびユーザーガイド」を参照してください。

3. モダリティにカセットを挿入して、患者の位置を合わせ、照射を行います。

照射実行後、[検査] ウィンドウは次のように表示されます：

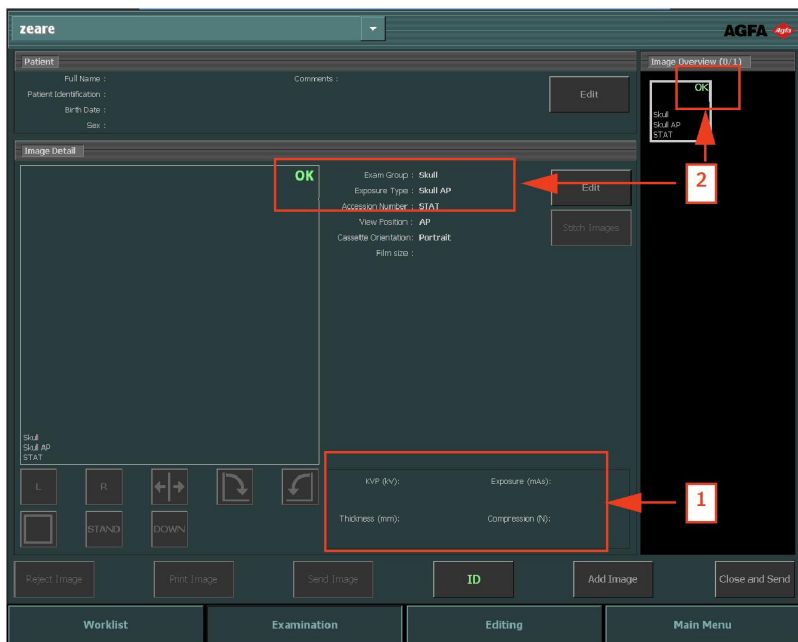


図 25: X線モダリティと接続して照射後の [検査] ウィンドウ

結果として:

- 実際の X 線照射パラメータは、モダリティから NX ワークステーションに返されます。
 - X 線照射パラメータ (kV、mAs または DAP 等) は、[検査] ウィンドウの画像詳細フレーム (1) に表示されます。表示パラメータのリストは設定できます。
 - 照射がなされ、照射設定が NX ワークステーションに返される全サムネール上に緑色の OK マークが表示されます (2)。
4. デジタイザまたは ID Tablet にカセットを挿入し、[検査] ウィンドウの [ID] をクリックします。



注意:

プレビュー画像がアクティブなサムネールで見えるようになるまで、他のサムネールを選択しないでください。取得した画像が間違った照射に関連づけられるおそれがあります。



注記: 照射前、照射中および照射後の X 線の被曝パラメータは、X-Ray System コンソール上に表示されます。



注記: 照射前、照射中および照射後の -Ray System の位置パラメータは X-Ray System コンソールに表示するか、もしくは X-Ray System コントロールから読み取ることができます。

5. パラメータは画像と共に保存されます。

パラメータは画像と共にアーカイブへ送信できますし、画像と共に印刷できます。MPPS 経由でも送信できます。



注記: NX Workstation ではデフォルトのパラメータを変更できません。コンソール上でのみ行えます。また、照射実行後、NX Workstation ではパラメータを変更できません。[検査] ウィンドウでのみ、参照できます。

1 個のカセットに複数の照射を行う

1 個のカセットに複数の照射で画像サムネールが設定された場合、別のサムネールのセットが画像詳細フレームに表示されます。今度は、各照射に対してサムネールを 1 つ選択して、デフォルトの適切な X 線照射パラメータをモダリティに送信します。

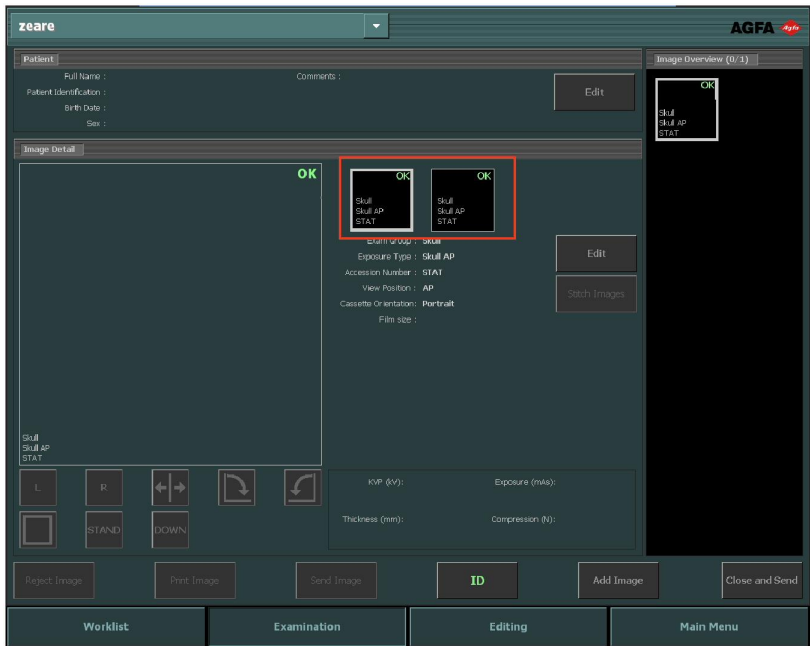


図 26: 同じカセットへの複数の照射が [検査] ウィンドウに表示されます。



注意:

不完全な照射パラメーター (kV, mAs) が、1つのカセットの複数のサブ照射のアーカイブへ転送されています。1つのサブ照射の照射パラメーターのみが転送されます。エクスポージャーパラメーターがアーカイブで解釈されている場合、複数のサブ照射を使用しないでください。

X 線発生装置と接続させた Mammography CR ワークフロー

NX Workstation は、X 線照射設定を交換するため Mammography X-Ray System Generator に接続可能です。この機能は、ライセンスによって異なります。

この状況では、カセットを識別するための専用ワークフローがあります:ID が 1 つずつのワークフローは、フィルム/スクリーン環境のモダリティに接続される ID カメラを使用するユーザーにとってのワークフローのカスタムです。

手順:

1. モダリティにカセットを挿入して、患者の位置を合わせ、照射を行います。
2. テーブルからカセットを外して、次のカセットを挿入します。
3. 検査概要フレームで、正しいサムネイルを選択します。
4. Tablet にカセットを挿入し、[検査] ウィンドウの [ID] をクリックします。これにより受信した照射設定を画像にリンクします。
5. デジタイザにカセットを挿入します。
6. 患者を再び位置合わせします。
7. 次の照射を実施します。
8. すべての照射が実行されるまで、2 以降を繰り返します。

推定 X 線撮影拡大率 (ERMF)

乳房 X 線造影法イメージは推定 X 線撮影拡大率に基づいて調整されます。調整の係数は、X 線発生装置のパラメータと共に与えられます。

推定 X 線撮影拡大率を変更できるのは、線源受像面間距離(SID)が X 線発生装置のパラメータと共に与えられる場合だけです。

X 線照射パラメータの手動エントリによる Mammography CR ワークフロー

NX ワークステーションは、乳房 X 線写真ワークフローにおいて X 線照射データを手動入力するために使用できます。

この機能は、ライセンスによって異なります。照射設定を交換する X 線デバイスと組み合わせて使用することはできません。

キユーザーは、NX 画像詳細フレームで X 線パラメータフィールドが表示されるよう NX を設定してください。



注記: 画像がアーカイブ、印刷、送信、拒否される前に X 線パラメータは更新できます。

手順:

1. カセットをテーブルに挿入して、患者の位置を合わせます。
2. 照射を実施します。
3. テーブルからカセットを外して、次のカセットを挿入します。
4. 検査概要フレームで、正しいサムネイルを選択します。
5. 画像詳細フレームで、X 線パラメータを入力します。

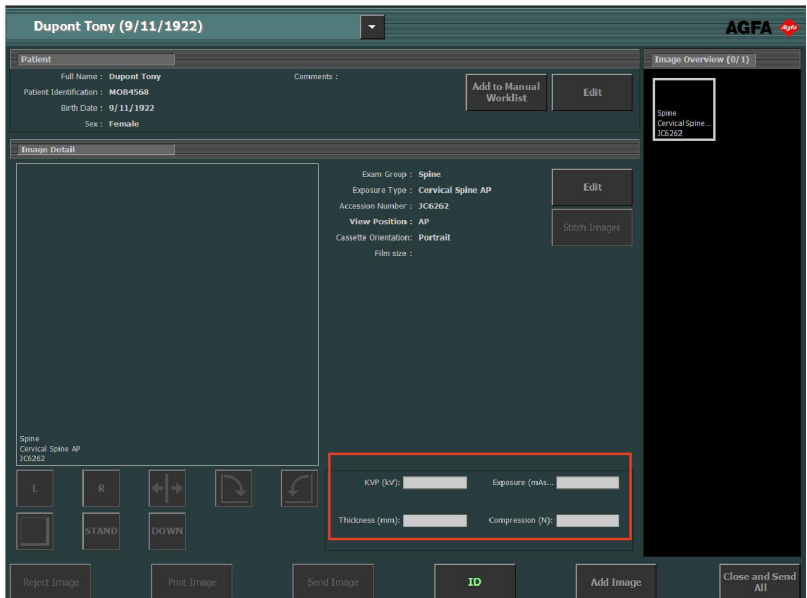


図 27: [検査] ウィンドウの X 線パラメータ

6. Tablet にカセットを挿入し、[検査] ウィンドウの [ID] をクリックします。
これにより入力した照射設定を画像にリンクします。
7. デジタイザにカセットを挿入します。
8. 患者を再び位置合わせします。
9. 次の照射を実施します。
10. すべての照射が実行されるまで、3 以降を繰り返します。

推定 X 線撮影拡大率 (ERMF)

推定 X 線撮影拡大率に基づいて調整を行うには

1. X 線発生装置のパラメータに線源受像面間距離(SID)を入力します。
2. 測定を行う平面と検知器の間の距離を入力します。

品質管理を実行する

手順:

1. 検査ウィンドウの画像概要フレームで、品質管理実行を望む画像を選択します。(1)

画像が画像詳細フレームに表示されます。(2)

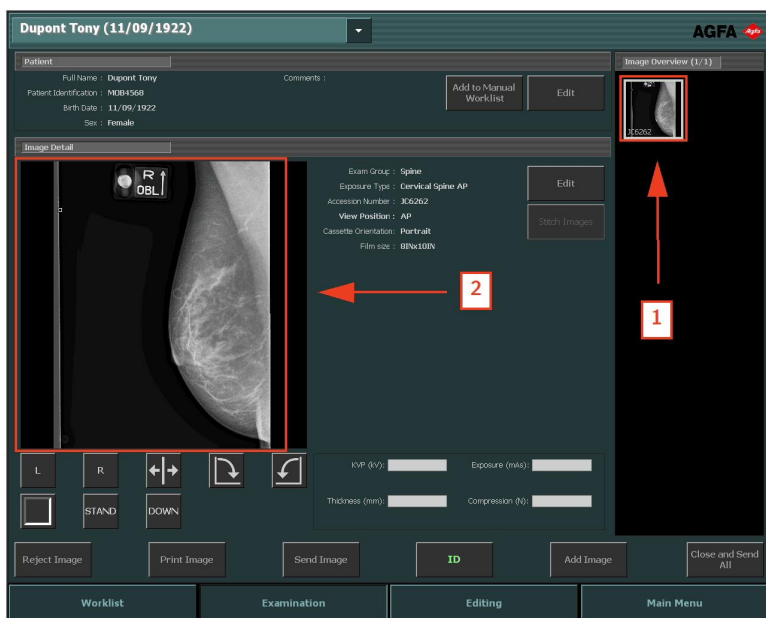





図 28: [検査] ウィンドウおよび画像詳細フレームに表示された画像

2. 画像詳細フレームでツール使用により、診断用に画像を作成します。

下の表はこれらのツールの機能を説明します。

ボタン	機能
 <p>図 29: [左マーカー] ボタン</p>	<p>左マーカーを追加します。ボタンをクリックして、次にマーカー配置を望む画像をクリックします。</p> <p>マーカーを除去するため、選択してから削除ボタンを押します。</p>

ボタン	機能
 <p>図 30: [右マーカー] ボタン</p>	<p>右マーカーを追加します。ボタンをクリックして、次にマーカー配置を望む画像をクリックします。</p> <p>マーカーを除去するため、選択してから削除ボタンを押します。</p>
 <p>図 31: [水平軸で反転] ボタン</p>	<p>画像を垂直軸を基準に反転する</p>
 <p>図 32: [反時計回りに回転] ボタン</p>	<p>画像を反時計回りに 90 度回転します。</p>
 <p>図 33: [時計回りに回転] ボタン</p>	<p>画像を時計回りに 90 度回転します。</p>
 <p>図 34: フリーハンド回転ボタン</p>	<p>任意角による画像を回転します。</p>
 <p>図 35: [ブラックボーダー] ボタン</p>	<p>非関連画像領域を覆うため、ブラックボーダーをオンまたはオフにします。</p> <p>DR 画像または CR 10-X 画像の非関連画像領域のトリミングをオンまたはオフにします。</p>

ボタン	機能
 図 36: [フルスクリーン] ボタン。	アクティブな画像をフルスクリーンモードに切り替えます。
 図 37: [高優先マーカー] ボタン。	高優先マーカーを画像に付けることを可能とします。印刷およびキューのアーカイブ中に画像は高優先となり、またアーカイブステーションで選択するために使用可能な高優先 DICOM 属性となります。



注記: 利用できるボタンは、[NX Service and Configuration Tool] の設定によります。詳細については、キーユーザーマニュアルを参照してください。

3. 画像がすべて OK の場合、閉じてすべて送信をクリックするか、F4 を押しします。

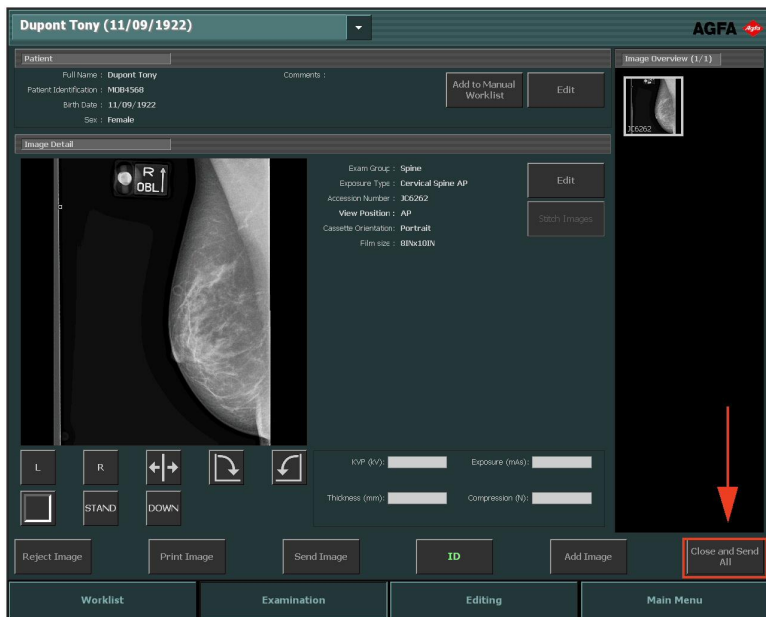


図 38: [検査] ウィンドウおよび強調された [閉じてすべて送信] ボタン

38 | NX 起動用シート | NX を起動する

設定後、画像はプリンタおよび/または PACS アーカイブに送信されます。
画像は完了検査フレームに置かれます。

広範な編集可能性について

編集 ウィンドウでは、画像上で詳細な操作を実行できます。このウィンドウでは、印刷用に画像の作成もできます。



注記: 編集環境で利用可能なツールは、マウスポインタで使用するよう設計されています。これは、より複雑なタスクを実行するための最も効率的な方法です。

編集 ウィンドウには 2 つのモードがあります:

- **ソフトコピー** ユーザーを焦点を合わせた通常モード; このモードでは印刷ツールは利用できません。
- **印刷モード:** このモードでは、印刷ツールがツールパレットに追加され、画像は WYSIWYG 印刷プレビューで表示されます。



注記: NX Service と Configuration Tool では、ワークフロー(印刷または PACS)に応じてデフォルトモードを選択できます。

次のツールセットが両方のモードで利用できます。ツールは幾つかのタスク特定セクションで表示されます:

- **選択:** 画像を管理する一般的なツール。
- **注釈:** 画像に診断注釈を追加します。
- **反転・回転:** 画像の変形を変更します。
- **ズーム:** 画像の表示を変更します。
- **画像処理:** 印刷前に画像を処理します。

印刷 モードには、画像印刷準備のために設定された追加的なツールがあります。